第 35 回とちぎの和牛を考える会　参加者アンケート　集計結果

文責：松村啓子（宇都宮大学共同教育学部）

質問1　回答者様の性別と年齢をお教えください。

年齢	人数	割合
20代	13	15.9%
30代	20	24.4%
40代	7	8.5%
50代	16	19.5%
60代	16	19.5%
70代	7	8.5%
80代以上	1	1.2%
不明	2	2.4%
合計	82	100.0%

性別	人数	割合
男性	54	65.9%
女性	27	32.9%
合計	82	100.0%

アンケート調査への回答者は、30 歳台以下が全体の 4 割を占めました。

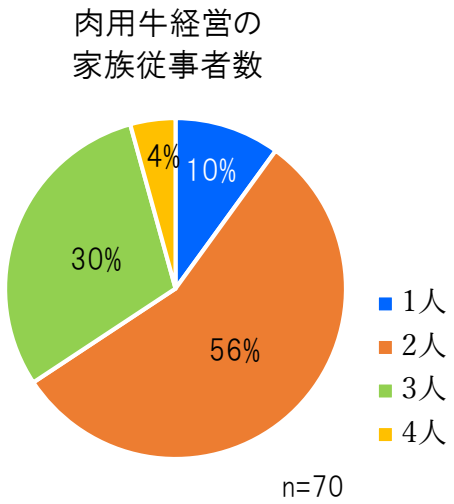
年齢と性別の組み合わせで多かった回答者は、30 歳台男性(15 名, 18.3%)、60 歳台男性（13 名，15.9%)、20 歳台女性（9 名，11.0%)、50 歳台男性（9 名，11.0%）でした。

質問2　お宅の肉用牛経営の種類をお教えください。

肉用牛経営	人数	割合
繁殖	57	69.5%
一貫	8	9.8%
乳肉複合	8	9.8%
授精師・獣医師	2	2.4%
行政職員	1	1.2%
不明	6	7.3%
合計	82	100.0%

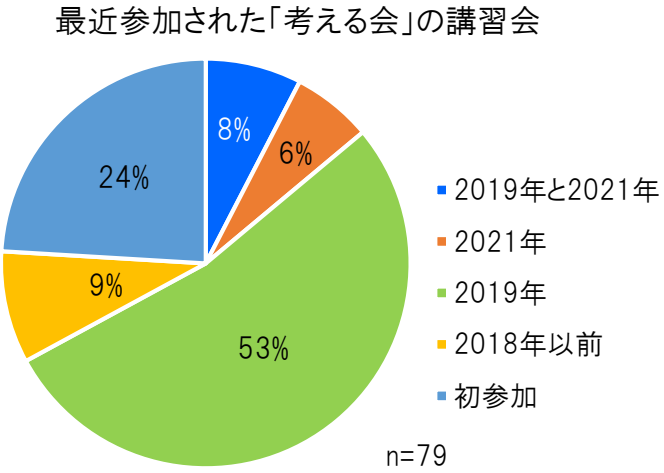
肉用牛経営の種類について、繁殖経営が全体の 7 割を占めました。回答者のうち肥育を行っている経営は、8 名（9.8%）にとどまりました。また、質問 2 について無回答だった回答者が 6 名（7.3%）いました。

質問3　回答者様以外で、肉用牛経営に従事しているご家族をお教えください。



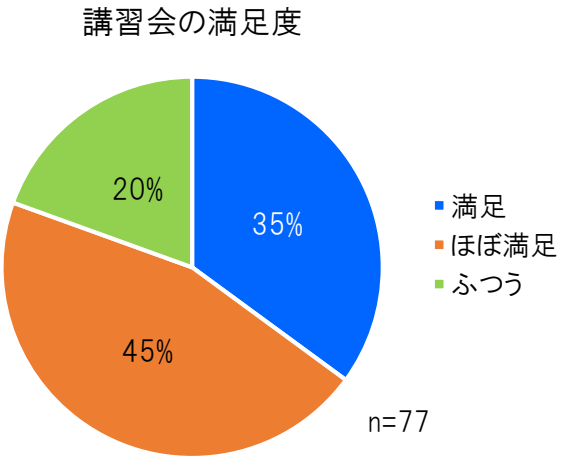
この質問では、無回答が 15 名でした。無回答は、「自分以外に従事している家族がいない＝1 人で経営」という回答が含まれます。無回答のうち、お一人で経営されていると推測される方が 7 名でした。肉用牛経営への家族従事者数は左の図のとおりとなっており、2 人が半数以上を占めていました。

質問４　最近参加された「考える会」の講習会を教えてください（複数回答可）。



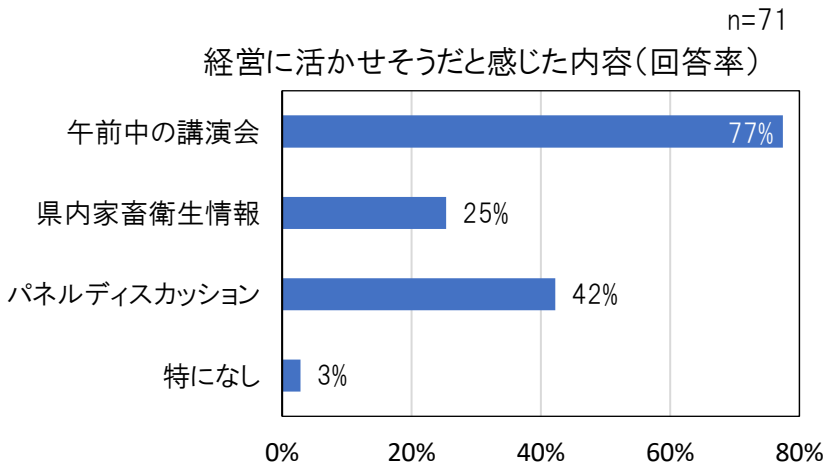
過去の講習の参加経験がある回答者が 4 分の 3 を占めています。直近 3 年以内の参加は 67%を占めます。30 歳台以下の回答者でも参加経験がある方が 57%を占め、年齢を問わずリピート率が高いと言えます。経営種別にみると、一貫経営と乳肉複合経営の回答者（計 16 名）の半数は初参加でした。

質問5　本日の講習会は、満足いただけたでしょうか？



「満足」もしくは「ほぼ満足」という肯定的意見が 80%を占めており、否定的意見はありませんでした。

質問6　本日の講習会で、ご自身の経営に活かせそうだと感じた内容に〇をつけてください（複数回答可）。



午前中の講演会は 8 割に近い回答者が「経営に活かせそうだ」と感じています。午後のパネルディスカッションの回答率が下がるのは、各パネラーの経営形態が異なり、自経営に直接取り入れることができない内容もあるからだと推測されます。

質問7　今後の「考える会」講習会の開催について、どうお考えですか？

無回答の 10 名を除く 72 名全員が「今回と同じ規模で開催」と回答しました。

質問8 「考える会」講習会の開催時期・場所・研修時間について、どうお考えですか？

大多数がいずれも「現状でよい」と回答しました。以下では、個別意見を記します。

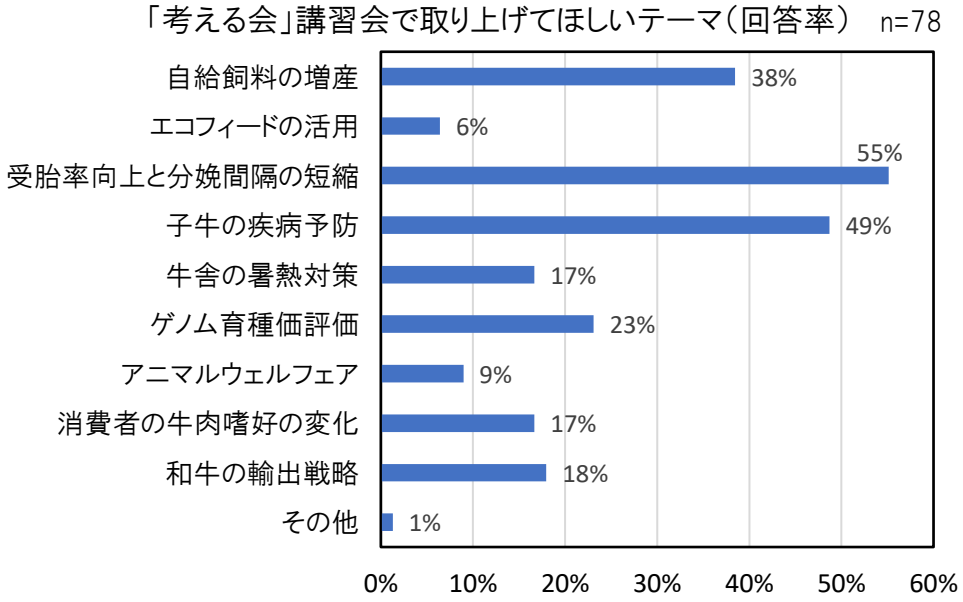
・開催時期については、4 名が 11 月以外の時期（1～2 月、3 月、4 ～ 5 月、10 月）を挙げました。

・開催場所については、1 名が中央地区、1 名が大田原を挙げました。

・研修時間（現状 5 時間）については、1 名が 3 時間、1 名が 3 ～ 4 時間、2 名が 4 時間と、短縮を望む意見でした。

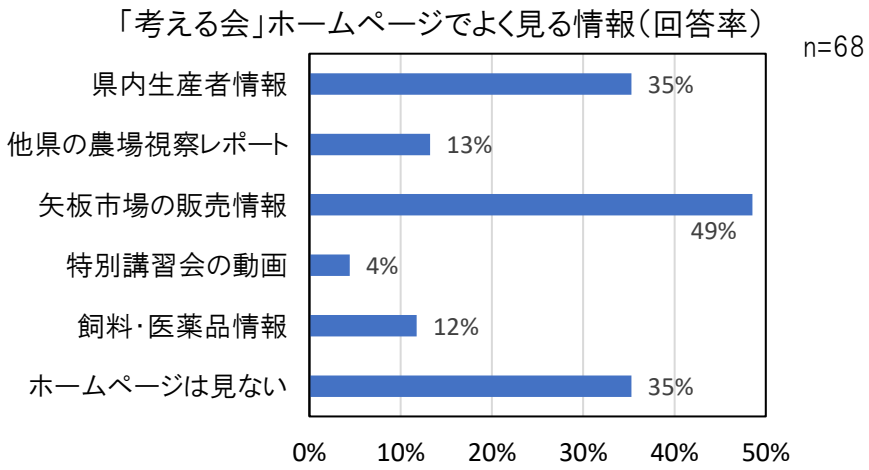
・上記以外に「**地域ごとに座席の振り分けをした方がいい**」という意見もありました。

質問9　次回以降の「考える会」講習会で取り上げてほしいテーマに、〇をつけてください（複数回答可）。



もっとも選ばれたテーマは「受胎率向上と分娩間隔の短縮」、僅差で「子牛の疾病予防」でした。収益率を大きく左右する事項への関心が高いと言えます。飼料価格の高騰下にあって「自給飼料の増産」を選んだ方も 4 割近くいました。以上の 3 テーマに比べると、他のテーマの回答率は 25%未満にとどまり、「ゲノム育種評価」がやや高い傾向にあります。

質問 10 「考える会」ではホームページで情報発信を行っています。どんな情報をよく見ていますか？（複数回答可）



質問 10 は無回答（14 名）が多くなっていますが、これはアンケート用紙の裏面の設問全体（質問 10～13）を見落とした可能性があります。

無回答を除いた 68 名を分母とする回答率では、よく見られる情報は「矢板市場の販売情報」（49%）、次いで「県内生産者情報」（35%）でした。「特別講習会の動画」は、2021 年 11 月に参加者数を 50 名規模に縮小して開催された講習会の VTR です。本調査の回答者のうち 11 名が同講習会に参加したものの、動画視聴者は 3 名にとどまりました。「ホームページは見ない」という回答者は、24 名(35%)で、年齢層に偏りはありませんでした。

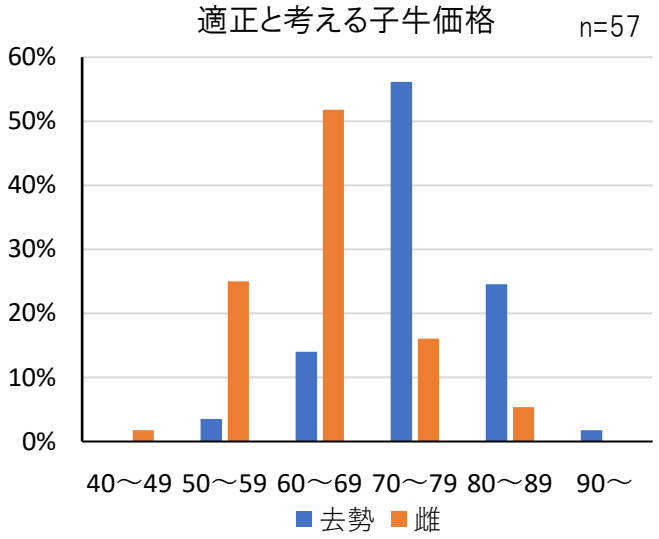
質問 11 飼料や資材が高騰し、子牛価格が低迷している現状に対して、お宅で取り組んでいることがありましたら、具体的に教えてください。

自由記述とした質問 11 は、32 名から回答を得ました。取り組みとして多く挙げられたのは、自給飼料の活用もしくは増産で、合わせて回答者の約半数に上ります。

一方で、こういう時期だからこそ、高品質な子牛を生産するために、「飼料の品質を落とさない」「何も変えない」という意見も各 3 名から得られました。

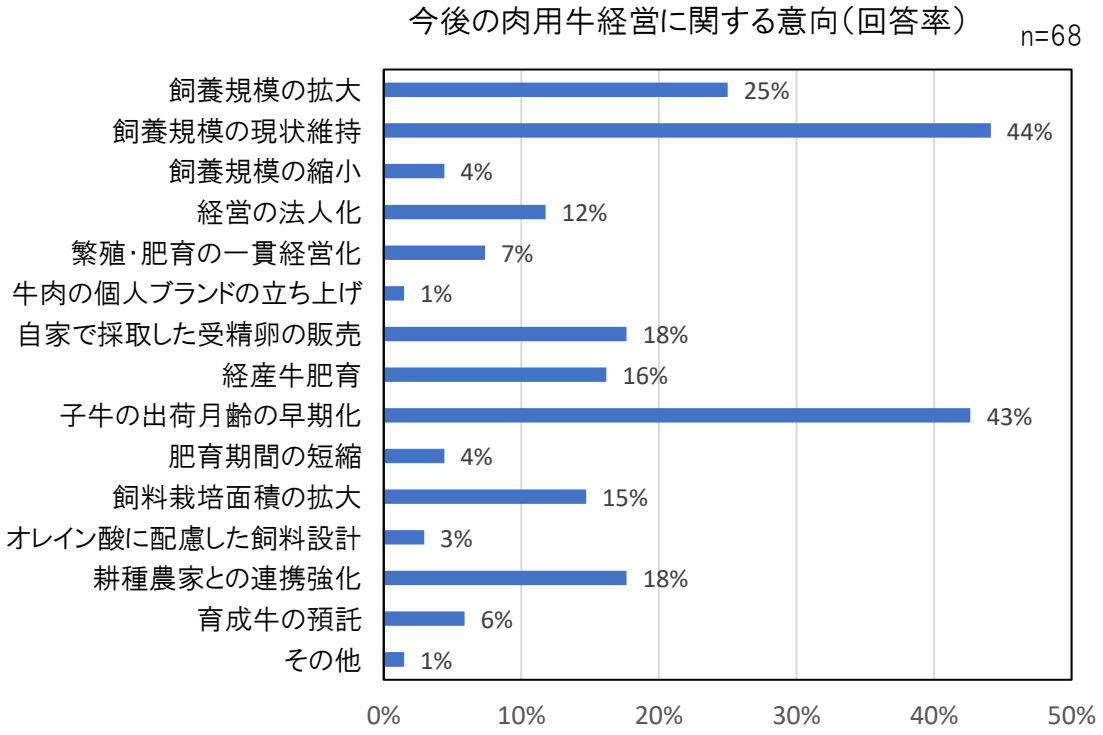
飼料・資材高騰と子牛価格低迷に対する自家での取り組み	回答数
安い素牛の導入	1
飼料（添加物含む）・資材 の経費削減（変更もしくは取りやめ）	3
自給粗飼料の増産（耕種農家との連携強化）	9
自給飼料の活用（粗飼料完全自給を目標）	8
乾牧草の買い控え	2
飼料や配合の品質を落とさない	3
生菌剤の積極利用	1
親牛の預託放牧	1
人工哺乳から親子授乳への変更	1
子牛の疾病予防	3
カウコンフォート、ストレス緩和、牛舎環境の改善	2
子牛の高価格販売	1
雌を産ませる	1
繁殖成績の低い牛の更新	1
ゲノム育種価の活用	1
ETによる和牛改良	1
これまでと何も変えない	3

質問 12　現在のお宅の経営にとって、適正であると考える子牛価格はどれくらいですか。



回答者の 50%以上が、2020 年度、2021 年度の平均価格帯である去勢 70～79 万円、雌 60～69 万円を、適正であると考えています。アンケート調査を行った 2022 年 11 月の矢板家畜市場の子牛平均価格は、雌が 56 万円、去勢が 69 万円で、適正と考える価格帯と 5～10 万円の開きがありました。現在（2023 年 7 月）の市況は生産者にとっての適正価格との開きが 10 万円以上に拡大しています。

質問 13　今後の肉用牛経営について、どのようなご意向をお持ちですか。あてはまるものに〇をつけてください（複数回答可）。



「飼養規模の現状維持」と「子牛の出荷月齢の早期化」という回答がほぼ同率で、4 割以上を占めています。質問 11 とも関連し、飼養規模はそのままで飼料費を節減しようとする姿勢が看取できます。「耕種農家との連携強化」は自給飼料の確保の一環で重視されています。一方で、有効回答の 4 名に 1 名は、飼養規模の拡大を考えていることも注目されます。「自家で採取した受精卵の販売」ならびに「経産牛肥育」は、新規の取り組みとして他の選択肢よりも志向される傾向にあります。